

地質調査研究報告投稿・執筆手引（マニュアル）

地質調査研究報告編集委員会

制定 平成 28 年 11 月 8 日

最終改定 令和 5 年 12 月 22 日

（趣旨）

第 1 条 本マニュアルは国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下、産総研）地質調査総合センターが出版する地質調査研究報告の投稿と執筆について定めるものである。

（投稿の手続）

第 2 条 投稿者は、所定の様式の受付票（別紙様式 1）を添えて地質調査研究報告編集委員会（以下、本委員会）が指定する形式の電子ファイル（必要に応じて印刷した原稿 1 部）を事務局（地質情報基盤センター出版室）に提出する。電子ファイルの形式については、原則として、本文原稿はワードファイル（拡張子は docx）、図は画像ファイル（tiff か jpg）、PDF ファイル（pdf）もしくはイラストレーターファイル（ai）、表は PDF ファイルもしくはエクセルファイル（xlsx）とする。なお、オリジナルの原稿と電子ファイルは著者が保管する。

（最終原稿の提出手続き）

第 3 条 査読結果に基づいて修正された原稿の電子ファイル（必要に応じて印刷した原稿 1 部）を事務局へ提出する。事務局からの受付通知をもって、投稿原稿の受付とする。

（原稿の構成と形式）

第 4 条 原稿は和文または英文とし、そのカテゴリに応じて別表-1 の構成とする。

（原稿の体裁）

第 5 条 原稿の体裁は以下の通りとする。

- 1 原稿の書式は A4 判縦用紙に横書きとし、次の基準にしたがうものとする。
 - 一 和文の場合は、文字サイズ 10 ポイント・30 行／頁程度とし、上下左の余白は 3 cm、右余白を 5 cm 程度とする。
 - 二 英文の場合は、文字サイズ 12 ポイント・25 行／頁程度とし、上下左の余白は 3 cm、右余白を 5 cm 程度とする。ワードラップを行い、改行は単語の区切りでのみ行う。
 - 三 装飾文字が正しく印刷できないことが確認されている場合は、印刷した原稿に赤で必要な指定を記入して提出する。
 - 四 原稿については、1 ページから連続した行番号を付けること。
- 2 受理後の最終原稿について、特殊文字・外字・上付き及び下付き文字、ルビならびに字体（ボールドやイタリック）などの指定は、原則として著者自身がワードの機能を使

用して行う。

- 3 数式など，上記 2 項の方法による指定が難しい場合は，これに代わる分かり易い方法で指定してもよい。また，図表挿入位置は，受理後に提出する本文原稿に指定する。

(構成要素ごとの執筆要領)

第 6 条 構成要素ごとの原稿は以下の通りとする。

1 タイトルページ

- 一 表題：簡潔でかつ論文の内容を十分に表現するものとする。
- 二 柱：和文 30 字相当以内で表題を簡略化したものとする。
- 三 著者名：日本人の姓名の日本語表記は姓名の順，英語表記は姓名の順とし，名は略さず表記する。英語表記では名と姓の頭文字のみを大文字とする。所属を示すために右上に数字をつける。連名の場合，日本語では間を「・」(中黒)で，英語では「,」(カンマ)と and で繋ぐ。日本語表記における姓と名の間は 1 文字(全角)あける。
(例) 地質 太郎¹・鈴木 淳²・鹿島灘 波子³

(英語連名表記の例) ISHIHARA Shunso, Carl R. ANHAEUSSER and Laurence J. ROB

- 四 所属：著者名の右肩にアラビア数字を付け，脚注として記入する。著者の所属が産総研ではない場合には勤務先及び所在地を，産総研元所員が在職中の研究成果を投稿する場合は，その研究時の所属部門等と現勤務先及び所在地を併記する。投稿時に無所属である時は，直近の所属等を記入する。産総研職員の所属の英文表記については，AIST, Geological Survey of Japan, ユニット名等の順とする。和文原稿の著者の所属等については以下の例を参考にして作成する。

(例)

- 1 産業技術総合研究所地質調査総合センター地圏資源環境研究部門 (AIST, Geological Survey of Japan, Research Institute for Geo-Resources and Environment)
 - 2 筑波大学生命環境学群 (Faculty of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, Ibaraki, 305-8572, Japan)
 - 3 日本学術振興会特別研究員，産業技術総合研究所地質調査総合センター地質情報研究部門 (JSPS Research Fellow, AIST, Geological Survey of Japan, Research Institute of Geology and Geoinformation)
 - 4 茨城大学名誉教授 (Professor Emeritus of Ibaraki University)
- 五 キーワード：英語の単語又は一般化した短い語句から 3-10 個を選定してタイトルページに記載する。キーワードの名詞は原則として単数形を用い，名詞を伴わない形容詞や前置詞の使用はさける。

(例)

- 1) 対象物：rare metal, Hishikari Mine, chert, Nohi Rhyolite, Mikabu Greenstones
- 2) 作用・機能・現象・概念：greenhouse effect, gold mineralization, secondary enrichment

zone

3) 学問分野・手法 : geochronology, paleontology, economic geology, K–Ar dating, EPMA, computer simulation

4) 地域 : Akita Prefecture, East China Sea, Northeast Pacific, California

5) 地質時代 : Proterozoic, Precambrian, early Miocene, Early Holocene

六 責任著者 (コレスポンディングオーサー) : 該当者の右肩にアスタリスクをつけ, 脚注として記入する. 記入例は以下のとおり.

(例) 産総研職員の場合

* Corresponding author: BBBBB, A., AIST Tsukuba Central 7, 1-1-1 Higashi, Tsukuba, Ibaraki 305-8567, Japan. Email: aaaaa@aist.go.jp

上記以外の場合 (勤務先所在地については, 所属で表記しているため省略)

* Corresponding author: BBBBB, A., Email: aaaaa@oooo.oo.jp

2 要旨 : 和文要旨は原則 400 字以内, 英文要旨は 300 語以内とする.

3 本文 (本文以外に関する一般則を含む)

一 和文原稿は, 句読点, 引用符, その他の記号も含め, 全角文字を使用する. 漢字まじり平仮名書き現代仮名使いによる. 漢字は常用漢字表にしたがう. ただし, 固有名詞や広く用いられている学術用語はこの限りでない. 送り仮名は, 同一原稿内では統一する. 句点には「.」, 読点には「,」を用い, 同格名詞の併記には「・」(中黒)を用いる. アルファベットは半角を用いる.

二 英文原稿は, カンマ「,」, ピリオド「.」, 疑問符「?」, 引用符「'」・「”」, その他の記号も含め, 半角文字を使用する.

三 数字は, 数量を表す際には原則としてアラビア数字とし, 半角文字を使用する.

四 単位は原則として SI (国際単位系) を使用し, 平面角を表す単位である°, ', "を除き, 数字と単位の間には半角スペースを入れる. 非 SI 単位でも慣例的に使用されているものについてはその使用を妨げない.

(例) 30 km, 5 s, 20 °C, 15 Ma, 5 ‰

五 緯度・経度の表記は, 世界測地系に基づいた数値で行う. ただし, 必要があつて世界測地系以外で数値を示す場合は, その旨を明記する. なお, 分単位未満の桁を表示しない概数値を示す場合は, この限りではない.

六 外国語 (ローマ字) 表記の人名は, 頭文字のみを大文字とし, 第二字以後は小文字を使用する.

七 見出しは, ポイントシステムによる. 見出しの数字は原則として 3 字までとする.

(例)

1. はじめに

2. 地形

2.1 丘陵・台地

2.1.1 多摩川左岸

2.1.2 多摩川右岸

...

(文献の引用)

第7条 文献の引用は以下の通りとする.

- 1 文中での文献の引用は, 著者名と年号の併記で示す. 日本語の場合, 著者が2名の際には姓を「・」で繋ぎ, 3名以上の際には筆頭著者の姓の後に「ほか」を付ける. 外国語(ローマ字)の場合, 著者が2名の際には姓を「and」で繋ぎ, 3名以上の際には筆頭著者の姓の後に「*et al.*」(イタリック指定)を付ける. 姓と年号から引用文献の識別ができない場合は, 年号の後に小文字のアルファベットを付けて区別する. 単行本などを引用した場合には, できるだけ引用箇所のページも明記する. また著者名が紛らわしい場合は, 姓名を完記する.

(例)

関(2001)によれば, 今後30年以内に80%の確率で震度6以上の.....

倉本・中尾(2002)は, 中央部から東部にわたって, 後期ジュラ紀のドレライト及び細粒閃緑岩もしくは閃緑岩が分布することを報告している.

これらの研究(角井ほか, 1978, 1979; 藤岡, 1985a, b)によると, 日詰-気仙沼断層の走向方向は北西-南東ないし北北西-南南東を示し, 見掛けの

Baumgartner, ed. (1995, p. 347-421)に示されたとおり, *Dictyomitrella? kamoensis* は...

Shibata and Nozawa (1967)によると, 斑状細粒花崗岩の普通角閃石の K-Ar 年代値は 100 Ma~80 Ma を示し,

堆積年代は必ずしもアプチアン期後期というわけではない(例えば, Pessagno *et al.*, 1977).

田中太郎(1997)による直方輝石についての見解に対して田中花子(1998)は.....

- 2 脚注は, 著者の所属以外には原則として使用しない.

3 引用文献

一 引用文献は, 本文の最後に「文献」(英文の場合は「References」)として著者名のアルファベット順に記す. 筆頭著者が同じ場合は, 本項第二号に定めた規則により並べる. 姓もしくは名が1文字の時は, 姓と名の間に全角スペースを入れる.

二 筆頭著者が同じ論文は, 単著論文, 2名共著論文, 3名以上の共著論文の順に並べる. 単著論文は発表年順, 2名共著論文は第2著者のアルファベット順を優先した上で発表年順に並べ, 3名以上の共著論文は筆頭以外の著者名に関らず筆頭著者ごとの発表年順とする.

三 外国語(ローマ字)表記では, 雑誌名及び単行本のタイトルはイタリック, 巻はボールド表記とし, それ以外はローマン表記とする.

四 公的機関等のウェブサイトを用いる場合は、「産総研地質調査総合センター（2011）ウェブサイトタイトル. <http://www.gsj.go.jp>（閲覧日：2020年1月31日 [英語論文の場合は, Accessed: 2020-01-31]）」の形で表現する.

（例）

秋山雅彦（1994）炭素の地球化学的サイクルと大気・海洋の起源. 地球科学, **48**, 279–283.

秋山雅彦・下山 晃（1988）アミノ酸のラセミ化による年代測定. 地質学論集, no. 29, 129–142.

Akiyama, M., Shimoyama, A. and Ponnamperna, C. (1982) Amino acids from the late Precambrian Thule Group, Greenland. *Origins of Life*, **12**, 215–227.

Cabanis, B. and Lecolle, M. (1989) Le diagramme La/10–Y/15–Nb/8: un outil pour la discrimination des series volcaniques et la mise en évidence des processus de mélange et/ou de contamination crustale. *Comptes rendus de l'Academie des sciences, Serie II*, **309**, 2023–2039 (in French).

広川 治・吉田 尚（1955）5 万分の 1 地質図幅「大迫」及び説明書. 地質調査所, 31p.

小松正幸・小山内康人・豊島剛志（1989a）日高変成帯の温度－圧力－変形史. 月刊地球, **11**, 239–244.

Komatsu, M., Osanai, Y., Toyoshima, T. and Miyashita, S. (1989b) Evolution of the Hidaka metamorphic belt, northern Japan. In Daly, J. S., Cliff, R. A. and Yardley, B. W. D., eds., *Evolution of Metamorphic Belts*, Geological Society of London, Special Publication, no. 43, 487–493.

松島信幸（1973）赤石山地の中央構造線. 杉山隆二編, 中央構造線, 東海大学出版会, 東京, 9–27.

Miyazaki, K., Ikeda, T., Matsuura, H., Danhara, T., Iwano, H. and Hirata, T. (2017) A high-*T* metamorphic complex derived from the high-*P* Suo metamorphic complex in the Omuta district, northern Kyushu, southwest Japan. *Island Arc*, **26**, e12208, doi: 10.1111/iar.12208.

水収支研究グループ編（1993）地下水資源・環境論－その理論と実践－. 共立出版, 東京, 350p.

中野 俊・大塚 勉・足立 守・原山 智・吉岡敏和（1995）乗鞍岳地域の地質. 地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）, 地質調査所, 139p.

Nakano, S., Otsuka, T., Adachi, M., Harayama, S. and Yoshioka, T. (1995) *Geology of the Norikuradake District*. With Geological Sheet Map at 1:50,000, Geological Survey of Japan, 139p. (in Japanese with English abstract).

中江 訓・小松原 琢（2002）西津地域の地質, I. 地形. 地域地質研究報告（5 万

分の 1 地質図幅), 産総研地質調査総合センター, 1–6.

Nakae, S. and Komatsubara, T. (2002) *Geology of the Nishizu District*, I. Topography. Quadrangle Series, 1:50,000, Geological Survey of Japan, AIST, 1–6 (in Japanese).

小川琢治 (1944) 日本群島. 弘文堂, 東京, 372p.

Ohta, E. (1980) Mineralization of Izumo and Sorachi veins of the Toyoha mine, Hokkaido, Japan. *Bulletin of the Geological Survey of Japan*, **31**, 585–597 (in Japanese with English abstract).

Reading, H. G., ed. (1986) *Sedimentary Environments and Facies*. 2nd edition, Blackwell Scientific Publications, Oxford, 615p.

産総研地質調査総合センター (2017) 20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2.

<https://gbank.gsj.jp/seamless/v2.html> (閲覧日: 2020 年 1 月 1 日).

曾屋龍典 (1971) 秋田駒ガ岳 1970 年の噴火と岩石. 地調月報, **22**, 647–653.

内野隆之 (2010) 新潟県加茂地域 (蒲原山地西部) に分布する足尾帯前期ジュラ紀付加コンプレックスの地質図と岩相. 地質調査研究報告, **61**, 365–381.

渡辺真人 (1990) 富山県氷見・灘浦地域の新第三系の層序—とくに姿累層とその上位層との間の時間間隙について—. 地質学雑誌, **96**, 915–936.

(図・表及び図版)

第 8 条 口絵以外の原稿の図・写真・表の類を次の 3 種類に分け, それぞれ番号をつける.

なお, 図表中の文字は原則としてローマ字・英文表記とする. また, 原則として折り込みの図表等は採用しない.

一 図 (Fig.): 本文中に入れる図と写真.

二 表 (Table): 本文中に入れる記号・文字・罫のみからなるもの.

三 図版 (Plate): 独立のページとして巻末に入れる写真.

四 出版の際は縮小する場合もあるため, 文字・記号・線などの大きさと調和に留意すること.

五 図・表の原稿は 1 図ごと, 1 表ごとに別の用紙または別ファイルを使用すること.

六 図・表・図版の原稿には, 1 枚ごとに著者名, 図・表・図版の番号を略記する. 同じく横置き指定や縮率の希望を記入することができる.

七 図の内容の大きさを示すには, 何分の 1 としないで, 具体的に記す (例えば, 横 8 cm や横 2/3 ページ).

八 位置図・地質図などには原則として緯度・経度を入れる. 緯度・経度を入れることができない場合には, 方位とスケールを記入する.

九 地名及び図名のローマ字表記は, 修正ヘボン式を用いる. ただし, 長音記号は使用しない. また, はねる音 (撥音) 「ん」はすべて「n」を用いる. 表記法については, 陸域は国土地理院に, 海域は海上保安庁にしたがう. ただし, 地層名等, 原記載に

したがう必要のある場合はこの限りではない。

(例) Sambagawa Terrane, Tamba Belt

十 著作物あるいは著作物中の図を転載（一部改変も含む）する場合は、あらかじめ許諾を得て出典を明記する（クリエイティブ・コモンズ・ライセンスなどが付与されている場合はそれにしたがう）。

十一 巻末に付録（Appendix）を付けることができる。

(図・表・図版説明文)

第9条 図・表・図版の説明文（Caption）は、それぞれ別グループとし、番号順に並べる。番号表記は第1図（Fig. 1）、第1表（Table 1）、図版1（Plate 1）とする。また、付録については、図表の場合、付図1（Fig.A1）及び付表1（Table A1）とする。和文論文では和英併記とする。

(難読・重要地名等)

第10条 原稿の末尾に、難読・重要な地名等のローマ字漢字対応表をつけることができる。

(例) Azae 砦部 Mikado 神門 Nagamiyama 魚神山 Susai 周匝 Toyoma 登米
Yunotsu 温泉津

(著作権)

第11条 本誌に掲載された論文・記事等の著作権（著作権法第27条及び第28条の権利を含む）は、産総研地質調査総合センターに帰属する。

(マニュアルの改廃)

第12条 本マニュアルを改廃した場合は、産総研地質調査総合センター運営会議にて報告するものとする。

改定履歴

このマニュアルは平成31年3月26日に一部改定した。

このマニュアルは令和2年1月1日に一部改定した。

このマニュアルは令和3年9月17日に一部改定した。

このマニュアルは令和5年12月22日に一部改定した。

別表-1 地質調査研究報告原稿の構成と形式

○：必要

△：必要に応じ

－：不要

	カテゴリー (*1)	その内容 (「地質調査研究報告の編集について」 (13 地調連覚書第4 号)で規定)	タイトルページ			要旨 (英文 及び和文)	本文	引用文献	図 (本文中 の写真を含 む)・表・ 図版	図・表・図 版の説明 (*6)
			表題・著者 名・所属 (以上はす べて和英併 記)	キーワード (英)	柱 (上部 欄外の見 出し)					
(1)	口絵 Frontispiece	写真や図及びその解説文で構成される独立の報告.	○	－	－	－	△	△	○	○
(2)	論文 Article	通常の学会誌で原著論文として取扱われる類の記事. 頁数の制限を特に設けないので比較的豊富なデータや多量の図表を含むものも掲載できる.	○	○	○	○	○	○	○	○
(3)	概報 Report	論文に準じて, 記載や暫定的あるいは予察的解釈を中心とする記事.	○	○	○	○	○	○	○	○
(4)	総説 Review	特定のテーマに関して既存論文を体系的に紹介するもの. (*2)	○	○	○	○	○	○	○	○
(5)	短報 (*3) Short Article	速報性のある短い論文	○	○	○	－	○	○	○	○
(6)	資料・解説 Note and Comment	各種データの紹介, 時宜を得た用語 (専門的な学術用語, 国際的な共同研究課題, 国際的な機関, 及びそれらの略称など) の解説など.	○	○	○	○	○	○	○	○
(7)	講演要旨 (*4) Abstracts	研究発表会, 研究講演会等の講演要旨. ただし, プログラム (ちらし) に掲載されたものではなく, 報告掲載用に作成したもの.	○	○ (3~5個)	○ (*7)	－	－	－	－	－
(8)	研究紹介 (*5) Research News	研究課題の開始年度, 中間年度及び終了年度における進捗状況等 (開始年度については計画の紹介).	○	○	○	○	○	○	○	○

*1 本表のカテゴリーに類さない記事を掲載する必要がある場合には, 地質調査研究報告編集委員会にて対応を決定する.

*2 ただし, 既存の考え方に対する批評や将来の研究方向等についての著者の見解を含まないものは, 原稿の規模に関わらず, “資料・解説” とする.

*3 刷り上がり原則4 頁以内. 1 頁は本文で2,250 字に相当.

*4 和文800 字以内, または英文350 語以内.

*5 完成原稿で2-4 頁.

*6 本文が和文の時は和英併記.

*7 研究発表会, 研究講演会の名称を使うこと.